

林業技術事例集

(普及情報)

第44集

令和8年3月



東京都産業労働局

= 目 次 =

経 営 (100 番台)	
101 集約型搬出間伐による、森林経営計画認定と施業開始について	
東京都森林事務所 森林産業課	1
造 林 (200 番台)	
201 花粉の少ないスギやヒノキの種子の生産に関する試験研究	
東京都農林総合研究センター 緑化森林科	5
202 林業用優良種苗育成への取組み (生産技術向上へ向けて)	
東京都森林事務所 森林産業課	7
森林保護 (300 番台)	
特用林産 (400 番台)	
401 町田市有林の広葉樹をシイタケ原木に!	
東京都森林事務所 森林産業課	11
林業機械 (500 番台)	
501 林業先進技術導入事業による林業機械の導入及び課題と対策	
東京都農林水産振興財団 森の事業課	14
林 研 (600 番台)	
木材加工 (700 番台)	
林 産 (800 番台)	
そ の 他 (900 番台)	
901 森林・林業研究成果の公表	
東京都農林総合研究センター 緑化森林科	20
902 木育の拡大に向けたセミナー及びバスツアーの開催	
東京都産業労働局農林水産部 森林課	22

903	東京農林水産フェアの開催 東京都農林水産振興財団 森の事業課 東京都農林総合研究センター 緑化森林科	25
904	体験イベント「こども記者が行く！東京の森を探るツアー」 東京都森林事務所 森林産業課	28
905	林業普及指導員 関東・山梨ブロックシンポジウムの開催 東京都産業労働局農林水産部 森林課	31
令和7年度	普及指導関連行事・活動一覧	37

「事例の所在地」 東京都あきる野市
「調査者」 東京都森林事務所 森林産業課
「事例発生時期」 令和4年度～令和7年度

〜〜
「事例の概要」

ねらい : 効率と安全性を重視した搬出間伐により、持続可能な森林管理を目指す
なにを : 約40名が所有する約40haの森林
こうした : 林業に関する知見や地元地域との関係を有していなかった企業が、新たに林業経営体となって森林整備を開始した

「事例の具体的内容」

東京都では、林業経営体等に対して森林整備推進のための様々な支援を実施している。本事例では、林業に関する知見や地元地域との関係を有していなかった東急建設株式会社が、都の事業を活用し、新たに森林整備を開始したので、その取り組みを紹介する。

1. 経緯

同社は、脱炭素社会の実現に向けて木造木質建築事業を推進している。令和4年度より、持続可能な森林サイクルの構築を目指して、林業事業化の検討を開始した。

2. ヘリ型ドローンによる森林調査

令和5年1月にヘリ型ドローン（ヤマハ発動機㈱製産業用無人ヘリ「FAZER R G2」）を用いた森林調査を実施した。レーザ照射による高密度点群データ（約3,000点/m²）を取得し、地表面や立木1本1本レベルの3次元デジタルデータを作成した。これにより、立木MAP・相対幹距比・樹種界図・高精密度CS立体図・傾斜分布図・精密等高線図・高精細オルソ画像を作成した。

本調査は、都内で初めてのヘリ型ドローンによる森林調査となるため、林野庁・森林事務所・あきる野市農林課も飛行状況を見学した。

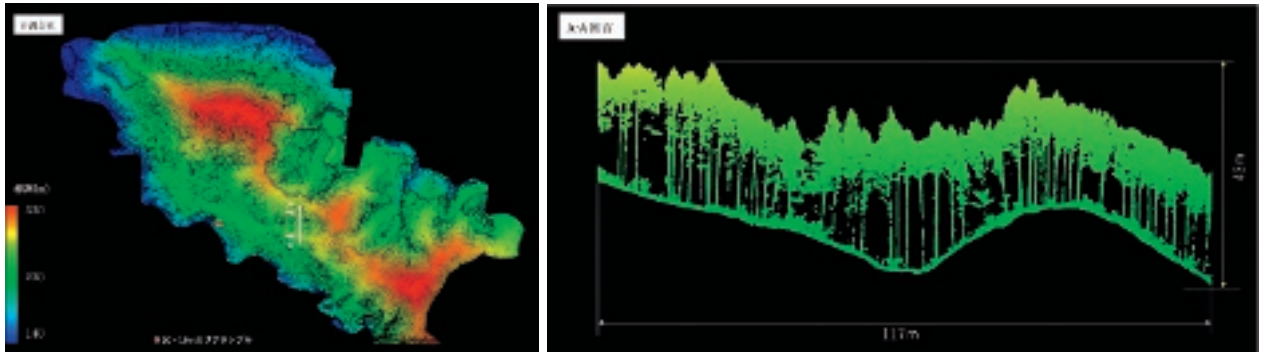


図-1 森林データ解析図



写真-1 FAZER R G2



写真-2 FAZER R G2 飛行



写真-3 機器説明



写真-4 見学者

3. 森林経営効率化支援事業の実施

森林経営計画策定において最大の課題は、山林内の境界が不明確であることである。当該事例でも境界不明の状態であったため、森林経営効率化支援事業を活用し、令和5年度に境界明確化を実施した。



写真-5 説明会開催

3-1. 地権者調査と説明会の実施

令和5年6月に地権者説明会を開催し、対象者の約半数となる20名が出席した。残りの地権者については自宅訪問により説明を行い、事業内容を周知

した。

3-2. 現地調査等作業の実施

同年7月より現地調査を開始した。公図資料やヘリ型ドローンで取得した立木や地形のデータを活用し、現地の状況や先人の痕跡を確認しながら境界特定を進めた。

同年10月より希望者に調査中の現地案内を実施し、その後標柱作業(立木へのペンキ塗り)や杭設置、測量、記録撮影を実施した。



写真-6 GNSS SP20

測量には、精度の高いGNSS測量器を用いて、境界点と線をデジタル化した。また、記録は360度カメラで杭1点毎に記録した。

これらの内容を地権者に報告し、本事業を完了した。



写真-7 森林調査



写真-8 標柱作業



写真-9 GNSS 測量

4. 森林施業計画の策定及び森林経営計画の認定

令和6年4月より、複数所有者をまとめた集約型施業計画の検討を開始した。先に取得した森林データや境界明確時において確認した現地の状況を踏まえ、間伐を計画した。資源の有効活用のため、作業道を開設し、列状間伐による搬出間伐を実施することとした。

また、林業業界は建設業等他の産業に比べて労働災害が多いことから、安全性と効率性向上のため、高性能林業重機の活用を念頭に、施業設計・計画(案)を策定した。

令和7年4月より地権者へ説明し、森林経営委託契約を締結した。同年5月末に当該山林において、5か年の森林経営計画の認定を受けた。



図-2 森林経営計画認定書

5. 森林施業の開始

施業には、都の認定事業者である榎山武師及び榎ウッドイーコイケが協力している。

令和7年6月より作業道の開設を進め、10月に完了した。10月より間伐施業を開始し、東京都造林補助事業を活用して実施している。



写真-10 シン・ラプトルⅡ遠隔操作

加えて、林業機械化促進事業や林業先進技術導入事業を活用して、ICT ハーベスタや世界初の自動伐倒装置を搭載した遠隔伐倒集材機「シン・ラプトルⅡ」を導入し、施業を行っている。



6. まとめ

同社は、多くの森林所有者等に本事例を知っていただき、放置林の減少や災害リスクの低減、地球環境の改善に寄与するとともに、林業人材の創出と育成を目指して事業展開を進めていきたいと意気込みを見せている。

写真-11 シン・ラプトルⅡとハーベスタ

本施業を通して、都内における新たな森林整備手法が確立することを期待している。

「事例の所在地」 青梅採種園（青梅市新町）
「調査者」 東京都農林総合研究センター 緑化森林科
「事例発生時期」 令和2年～令和4年

～～
「事例の概要」

ねらい：花粉発生源対策に用いる「東京都産花粉の少ない苗木」の生産量を増やすため、青梅採種園における種子増産技術を確立する。

なにを：少花粉スギ採種木および少花粉ヒノキ採種木からの種子生産
こうした：花粉の少ないスギ種子の発芽率を向上させるとともに、少花粉ヒノキ採種木の剪定技術を確立した。

結果：青梅採種園における種子生産性の向上に寄与した。

「事例の具体的内容」

1. 花粉の少ないスギ種子の発芽率の向上

発芽率低下の原因であるカメムシ（図1）を防除するため、少花粉スギ採種木に目合い0.8mmのポリエチレン製の袋をかける（図2）ことで、発芽率は、採種木全体にかけた場合60.0%、枝にかけた場合58.6%となり、月に1回薬剤で防除した場合の16.8%および防除しない場合の10.2%より有意に高くなった（図3）。

2. 少花粉ヒノキ採種木の剪定技術の確立

円錐形、円柱形における強剪定、弱剪定の4パターンで剪定（図4）し、剪定直後と剪定から8ヵ月後に高さ毎に枝の水平長さを測定した結果、すべてのパターンで上部の枝ほど伸長し、円錐型は円柱型へ、円柱型は盃状型へ移行した。また、弱剪定では、どの高さでも枝長が100cmを超え、隣接する採種木との枝の重なりが目立ち、今後の採種に支障が生じる可能性が示唆されたため（図5）、強剪定が望まれる。



図1 スギ球果を加害するカメムシ



図2 袋かけの状況
(左：全袋かけ区、右：枝袋かけ区)

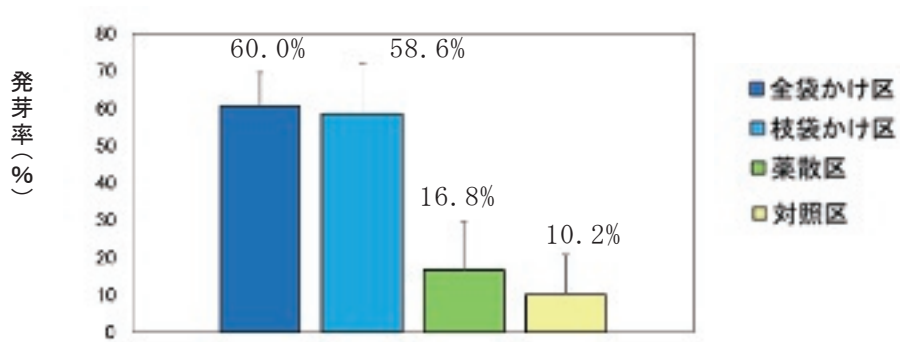


図3 各試験区の発芽率

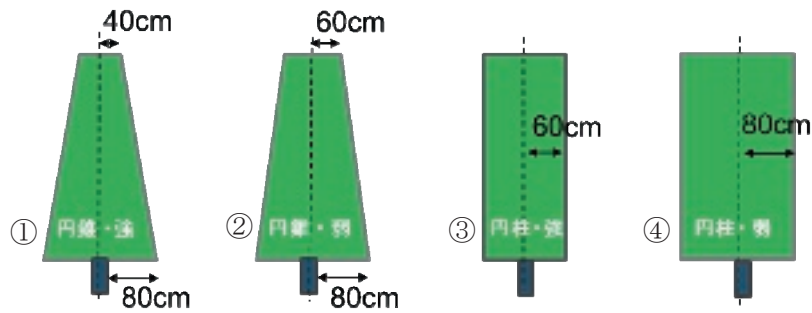


図4 少花粉ヒノキ採種木の剪定パターン

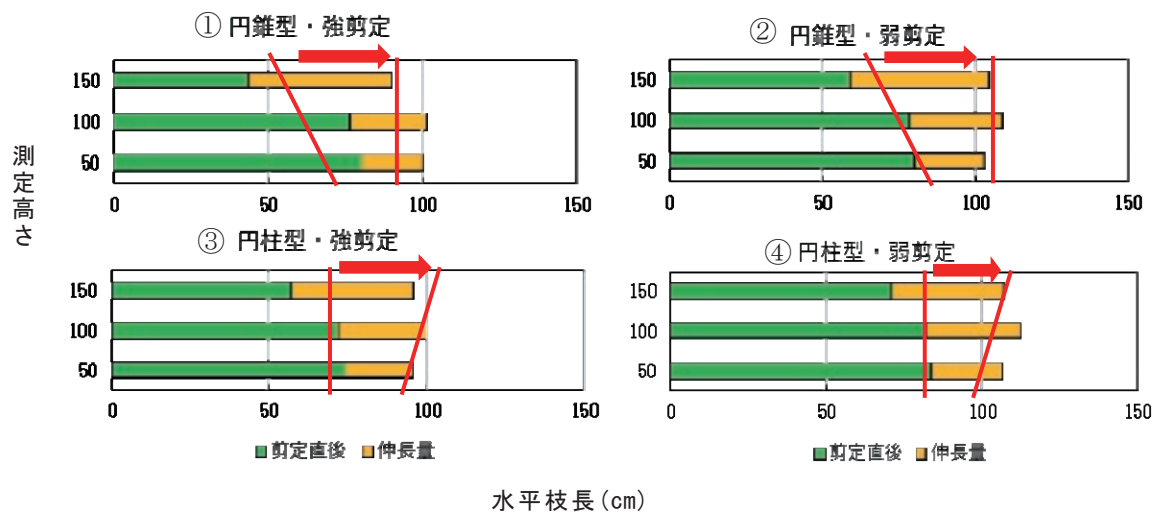


図5 剪定パターン毎の枝の長さ

「事例の所在地」 東京都青梅市内
 「調査者」 東京都森林事務所 森林産業課
 「事例発生時期」 令和 7 年 10 月 9 日表彰

「事例の概要」

ね ら い : 林業用優良種苗育成技術の実証
 な に を : 第三者等からの視点での評価
 こうした : 全国山林苗畑品評会への出品
 結 果 : 林野庁長官賞受賞

「事例の具体的内容」

東京都では優良種苗育成の一環として、平成 17 年度から花粉の少ないスギ、平成 27 年度から花粉の少ないヒノキの生産に取り組み始めました。東京都の苗木生産は、住宅や道路に囲まれた小規模の畑を組合わせて活動しており、生産者数も少ない中、東京都で植林する苗木の半数以上生産している状況です。現在実施している森林循環に資する花粉症発生源対策事業による伐採・植林の規模は毎年 10 万本以上となっており苗木供給量の増加が期待されているところです。この期待に副うべく技術の実証として現在実施している技法が全国レベルで測れないものかと思い全国山林苗畑品評会へ出品する運びとなりました。

[出品者の紹介]

生産者 : 大野仁和雄
 経 歴 : 平成 10 年度よりスギ及びヒノキの優良種苗生産に携わる
 平成 17 年度より花粉の少ないスギ等の生産に携わる
 生産規模 : 1,831 m² 164,000 本（スギ、ヒノキ）



苗畑と生産者

[審査項目]

○品種系統

東京都農林水産振興財団東京都農林総合研究センターで生産された少花粉品種、14系統の品種を母体とした優良系統の種子を使用しています。



東京都農林総合研究センターより納品された種子

○合理化経営と創意工夫

トラクターや汎用管理機械、根切機、床替機などの機械力の導入や除草剤の使用により省力化を図っています。また気候に合わせて床替時期の調整を図るなど創意工夫に努める経営を行っています。



令和4年度導入 床替機

○保護管理

播種前の土壌消毒、定期的な薬剤散布、樹形を整えるための剪定作業の実施、また研究機関や他県との情報交換を実施しています。

○肥培管理

緑化樹生産で培った技術を生かし、連作障害を避け土壌改良材や各種の肥料により地力の増強に努めました。

○苗木の成果

各工程の管理や、創意工夫により苗木の成長は良好で病虫害や二股等の山行不適苗は見受けられませんでした。出品苗畑標準苗木形状調査データから算出した結果は下記のとおりです。

- ・ 苗長 (H) / 根元径 (D) 52.3
- ・ 全重量 (G) / 苗長 (H) 2.36
- ・ 根張り / 苗長 (H) 0.69
- ・ T / R 率 4.00



苗高測定



根元測定



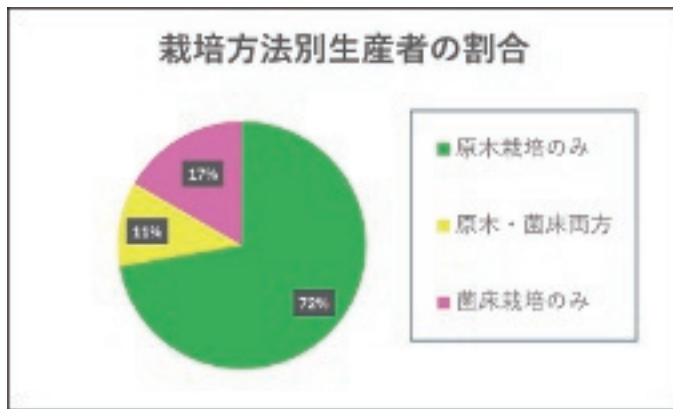
重量測定



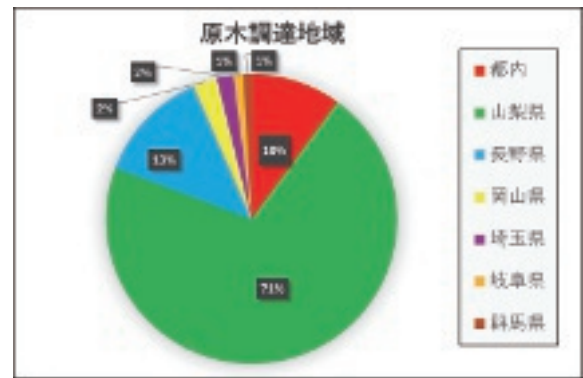
検体測定写真

[結果と総括]

上記苗木成長実態をもって令和6年度全国山林苗畑品評会に出品したところ、その結果林野庁長官賞を受賞するに至りました。この度全国規模の品評会に出品し入賞したことは都内において小規模零細生産体制下で行ってきたスギ苗等育苗技術は他県との遜色はなく、またここ数年同品評会において東京都苗木生産者が各種受賞を受けていることを見ても技術的向上は着実になされていると確信しました。この結果若手後継者に夢を与え、今後の生産量の増加、苗木の品質管理はさらに期待できるものと思われます。



図－2 栽培方法別生産者の割合



図－3 原木調達地域

2 町田市の概況等

町田市は新宿などの都心や横浜へのアクセスは電車で30分と良好である一方、多摩丘陵と相模原台地にまたがり平地が少ないため、自然が豊富で里山や公園および農地が点在している。鶴見川・境川・恩田川など水源が豊富のため農業が盛んで、地元野菜の直売所も多く地産地消が進んでいる。令和6年度調査によると、町田市におけるシイタケ生産者数は5戸で、東京都（全体で55戸）の区市町村の中では5番目に多い市となっている。

町田市の森林面積は778haで市全体の面積の11%となっている。広葉樹の割合が高く（72%）、「町田市里山環境活用保全計画」を策定して持続可能な里山づくりを目指している。

一方、古くから市民活動も活発で、NPO法人「鶴見川源流ネットワーク」は20年ほど前から町田市有林の整備をはじめ、継続して植生・生物生育調査や市民を集めたイベントを実施している。さらに15年ほど前からは地元の小学校と連携して、3年生ではクヌギの苗づくり、4年生では市有林内を散策、6年生ではクヌギの植栽を行い、子どもたちへの木育活動にも寄与している。



写真－1 3年生による苗づくり

NPO 法人がクヌギを植えているのは、町田市有林をオオムラサキの繁殖地と



写真－２ 6年生による植栽

するために、谷部にはオオムラサキの幼虫のエサとなるエノキを植えている。植樹したクヌギ等が大きくなって間伐の時期を迎えたら、市民を募って間伐イベントを開催している。間伐をした材はその場に切り捨ててしまっていた。

3 間伐材をシイタケ原木にして活用したい！

原木が不足しているシイタケ生産者と切り捨てられている広葉樹間伐材をつなぐことで森林資源を有効活用できる。そう考えた普及担当は町田市農業振興課里山担当に相談し、市有林から搬出した材をシイタケ原木として活用することを承諾してもらった。その後、NPO 法人「鶴見川源流ネットワーク」を紹介してもらい、町田市のシイタケ生産者の団体である JA 町田市椎茸部会の協力のもと、令和 6 年 11 月 22 日に間伐予定地の現地調査を行った。調査の結果、シイタケ原木として活用できることがわかり、令和 7 年 2 月 23 日に NPO 法人が開催した間伐体験イベントに同行して、市民が間伐した広葉樹をシイタケ生産者につなげることができた。間伐した森林は平成 25 年に植栽したクヌギ・コナラ林であった。本数は玉切った状態で 102 本と少な目ではあったが、今後も継続していきたい。



写真－３ 間伐イベントの様子



写真－４ 玉切った間伐材

No.501 林業先進技術導入事業による林業機械の導入及び課題と対策

「事例の所在地」 東京都西部の人工林

(現地実証は、主に西多摩地域と南多摩地域内)

「調査者」 公益財団法人東京都農林水産振興財団 森の事業課

「事例発生時期」 令和4年度～令和7年度

〜〜

「事例の概要」

- ねらい : 先進技術を効果的に活用して施業の効率化を進める
- なにを : 先進技術導入事業を実施
- こうした : 事業における導入機械の説明及び事業の課題を明らかにする

「事例の具体的内容」

1 都政における位置づけ

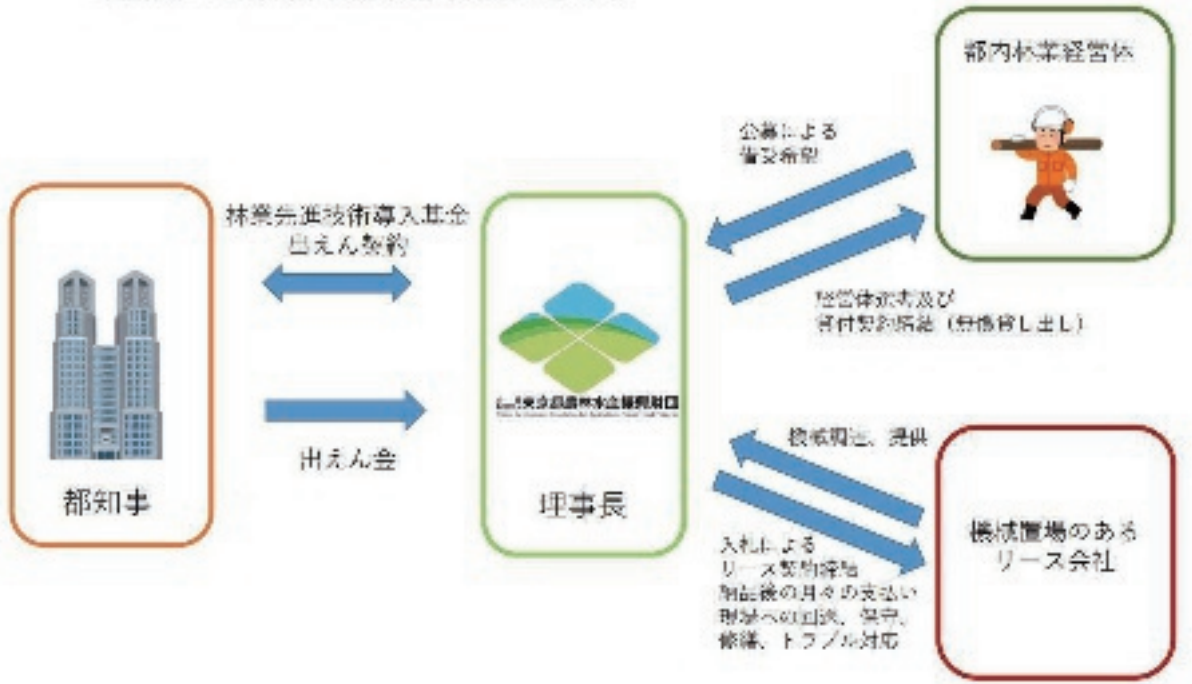
2050年代に目指す東京の姿「ビジョン」を実現するため、2035年に向けて取り組む政策をまとめた、都政の新たな羅針盤である「2050東京戦略」において次のとおり示されている。「スマートシティ（東京のポテンシャルを磨き上げもっと活力あふれる東京へ）」の実現のため「持続可能な農林水産業の確立」では、地球規模の気候変動や国内外の情勢変化など農林水産業を取り巻く環境が変化する中、この機を捉えて、それぞれの産業が抱える課題を乗り越え、次世代に繋いでいく持続可能な農林水産業を確立する。このため「森林循環の促進」へ向け、先進技術の効果的活用である「機械の導入促進による作業の省力化」に取り組むことが求められている。

2 事業の概要

先進技術を実装した林業機械等を導入するため、公益財団法人東京都農林水産振興財団（以下「財団」という。）に対して東京都が出えんを行い、東京都が指定する先進的な機械を財団はリース会社から調達して林業経営体に貸出、機械の普及を図るとともに導入にあたっての課題等を検証する。

(以下、図参照)

東京都 林業先進技術導入事業のしくみ



3 導入した林業機械

事業を通じて導入した林業機械以下のとおり。

- (1) 油圧式集材機
- (2) タワーヤーダ

主に伐採した木を土場まで運搬する機械

- (3) ハーベスタ C93
- (4) ハーベスタ 25SH-II
- (5) 4輪式多関節作業機械/スパイダー
- (6) ロングアーム伐倒機ほか

主に立木の伐倒や伐倒した木を造材する機械

具体的には...

(1) 油圧式集材機

納入日：令和5年3月31日

機械の特徴

集材機を無線操作することが可能で、オートチョーカーとの併用により造材作業者と荷掛作業者の2人での集材作業による省人化が可能。

また、任意で登録した土場地点または先山地点までボタン一つで搬器を自動走行させ、集材機の操作時間を削減できる。



(2) タワーヤーダ

納入日：令和5年4月12日

機械の特徴

架線システムがシンプルな作りとなっており、設置までの時間が集材機と比べて極めて短い。

また、「リモコンでの操作」が可能となっており、少ない人数での搬出が可能である。さらに線の張替え、次の作業を容易に行うことができる。



(3) ハーベスタ C93

納入日：令和6年8月6日

機械の特徴

造材した丸太すべてをデータ化する造材ウォッチャーというソフトウェアを搭載している。造材した丸太のサイズや量が即時に報告・事務所に共有されることで、その先の製材業者とのリアルタイム連携も行うことができる。



(4) ハーベスタ 25SH-II

納入日：令和7年1月17日

機械の特徴

ストローク式ハーベスタ。C93の用なローラー式と比べるとスピードは少し劣るが、材に傷がつきにくい。そのため誰が使用した場合でも比較的安定した素材生産を行うことができる。



(5) 4輪式多関節作業機械（スパイダー）

納入日：令和6年7月25日

機械の特徴

ベースマシンの足に特徴があり、4輪をそれぞれ独立させて操作が可能である。厳しい地形条件でも安定して走行が可能である。急な斜面でも他の林業機械より上ることができる。また、ヘッドがハーベスタになっており伐木造材も可能である。



(6) ロングアーム伐倒機ほか

納入日：令和7年11月26日

機械の特徴

ロングアーム伐倒機（ブラキオ EX）とフェラーバンチャ（ザウルス）のアタッチメントがそれぞれ可変することができる。ロングアーム状態では最長 12m 先の立木の伐倒が可能であり、フェラーバンチャ状態では伐倒はもちろんのことバケットで路網作設も可能となっている。



4 課題と解決

(1) 先進林業機械のオペレーター育成

課題

林業業界が比較的小規模であることもあり専門的な林業機械の人材が不足している。先進林業機械は作業効率や安全性を高める一方で、オペレーターには高度な操作技術が求められるため先進技術導入事業においては十分なオペレーターへのトレーニングが必要である。しかし、メーカーやリ

ース会社によって対応能力に差があり、特に運用面について教えることができる人材が希少なことが課題である。

対策

導入した林業機械のメーカーやリース会社との連携や必要に応じて実際運用している経営体との繋がりが必要である。メーカーやリース会社の対応能力に差があってもメンテナンス面においては精通している場合が多い。

しかし、運用面で不足を感じる場合においては、該当機械を実際に稼働させている経営体への現場視察を通じて運用面での知見を共有できる体制を構築することによって、実践的な教育をする体制を確立することが重要である。

(2) 機械トラブル対応や関連備品の追加購入品に関する相談

課題

借受者より機械トラブルや関連備品の追加購入の相談がある。その場合には的確に意図を汲み取る必要がある。しかし先進林業機械は専門性が高く、的確に内容を把握することが難しい場合がある。

対策

事業が開始した令和4年度からの積み上げを参考にして機械トラブルや関連備品の追加購入の相談に対応する。また、借受人と会うことができる出張には参加してコミュニケーションを取ることが重要である。日頃から操作上の課題や不便な点などの聞き取りを行う。また、専門性が高い内容であっても迅速にメーカー、リース会社や代理店との橋渡し役をする。

5 まとめ

先進技術を実装した林業機械の導入は、都内にて主伐・間伐を行う経営体が更に「効率的」で「安全な林業」への足掛かりになる事業である。事業の中において課題はあるものの、今後も「森林循環の促進」へ向け、先進技術の効果的活用である「機械の導入促進による作業の省力化」に取り組むことを目標とする。

No.901 森林・林業研究成果の公表

「事例の所在地」 青梅合同庁舎 3階第1～3会議室
「調査者」 東京都農林総合研究センター 緑化森林科
「事例発生時期」 令和7年6月16日

~~~~~

「事例の概要」

ねらい : 東京都農林総合研究センターで行った森林・林業関係の試験  
成果を公表し、都民に還元する  
なにを : 令和6年度までの試験成果  
こうした : パワーポイントにより発表

「事例の具体的内容」

1. 日 時 令和7年6月16日
2. 場 所 東京都青梅合同庁舎3階 第1～3会議室
3. 参加者数 46名
4. 内 容 昨年に引き続き、対面とオンラインの併用により実施した。  
オンラインでは、あらかじめ録画した動画の動画共有サイト  
での配信を行った。

①花粉の少ないスギやヒノキの種子の生産に関する試験研究

東京都農林総合研究センターでは、東京都から委託を受けて、花粉の少ないスギやヒノキの種子を、青梅市内にある採種園で生産している。発表では、これら花粉の少ないスギやヒノキに関して取り組んでいる試験研究成果について紹介した。あわせて、花粉の少ないスギやヒノキの生産方法についても紹介した。

②「100年の森」におけるシカ柵の設置とドローンによる調査

優良大径材を得るため令和4年、試験林に「100年の森」として花粉の少ないスギと花粉の少ないヒノキ、各1ha植栽した。発表では、植栽木の周囲に張った急斜面版シカ侵入防止柵の設置状況とその周囲に生息する野生動物の実態、降雪後、ドローンを用いたシカ柵の点検について紹介した。



写真1 発表の様子



写真2 発表の様子

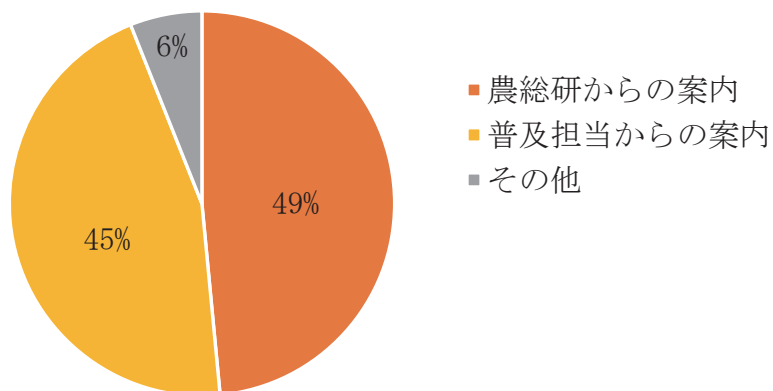


図1 来場者アンケート結果：今回の開催をどのように知りましたか。  
(回答 32 名)

表1 来場者アンケート結果：成果発表の中で、特に印象に残った課題を選択してください。

| 印象に残った課題                     | 件数 |
|------------------------------|----|
| 花粉の少ないスギやヒノキの種子に関する試験研究      | 17 |
| 「100年の森」におけるシカ柵の設置とドローンによる調査 | 20 |

(回答 32 名、複数選択)

~~~~~「分野」その他  
No.902 木育の拡大に向けたセミナー及びバスツアーの開催

「事例の所在地」 都民ホール(セミナー)、西多摩郡檜原村等(バスツアー)
「調査者」 東京都産業労働局農林水産部 森林課
「事例発生時期」 セミナー：令和7年9月20日(土曜日)
バスツアー：令和7年11月5日(水曜日)

~~~~~  
「事例の概要」

ねらい 次代を担う子どもたちに森林や木材を親しむ心を育み、将来の木材利用につなげる「木育」を拡げていくため、日頃から子どもに接する大人たちに、木育の意義やその実践方法を学んでもらう。

なにを 保育士など日常的に子どもに接する大人たち

こうした 木育の具体的な事例等に関するセミナーを開催し、木育について理解を促進した。さらに、セミナー参加者が、実際に林業現場や木質化された保育施設等を訪れ、講師等と意見交換を行うツアーを開催し、木育の意義や効果を体感してもらった。

「事例の具体的内容」

1 背景

子どもたちが、木材や木製品とのふれあいを通じて、材料としての木の良さや、その利用意義を学ぶ「木育」は、将来にわたって木材利用を推進していくために重要な取組である。

このため都は、保育園や幼稚園における内装の木質化、木製什器や木製遊具の導入といったハード整備に加えて、森への遠足や木を使ったワークショップなどの木育活動を支援している。また、子どもたちへの木育を推進するには、まず周りの大人たちの木材や森に関する理解を深めることが重要であるため、例年、木育を推進している特定非営利活動法人「芸術と遊び創造協会」との共催により、保育士や幼稚園教諭等に向けたセミナー及び現地ツアーを開催している。

2 実施概要

<森のめぐみの保育環境セミナー>

(1) 日 時：令和7年9月20日(土曜日) 13時～16時

(2) 開催場所：都民ホール

(3) 参加者数：75名(保育士、幼稚園教諭、学校教員、その他)

(4) 内 容：

①プロローグ

「木育がもたらす子どもの育ちとは」

- ・東京おもちゃ美術館による発表

②東京都木育推進事業について

- ・東京都森林課による概要説明

③保育実践報告会

毎日の保育の中で「木育」を実践

- ・みらいく鷹番園（目黒区）
- ・小野路保育園（町田市）

ファシリテーター：東京学芸大学大学院 大谷 忠 教授

③パネルディスカッション

「都心部のこどもたちの木育、自然との関わりを考える」

- ・株式会社山武師
- ・株式会社東京・森と市庭
- ・株式会社パザパ
- ・東京都森林課

ファシリテーター：法政大学社会学部 茅野 恒秀 特任教授

④自由懇談・木育おもちゃ体験

保育実践報告会では、施設の木質化や木育について取り組んだ保育園等から、子どもたちや保育者の変化等について、また、パネルディスカッションでは、各団体が木育に関連した事業や取組内容の紹介等を行った後に、木育の意義や課題等について意見交換を行った。

さらに今年度の新たな取り組みとして、登壇者と参加者が直接対話し、木育おもちゃの体験もできる時間を取り入れたほか、セミナーのアーカイブ動画を産業労働局YouTubeチャンネルにアップロードし、当日の様子を周知する取り組みを実施した。



自由懇談の様子



アーカイブ動画の公開  
(木育 Web サイトでの周知)

<森のめぐみのバスツアー>

(1) 日 時：令和7年11月5日（水曜日）10時～16時

(2) 参加者：14名（セミナー参加者から募集）

(3) 行 程：

- 10：00 ① 集合 JR武蔵五日市駅
- 10：30～12：00 ② 見学等 林業現場（㈱東京チェーンソーズ社有林）
- 12：00～13：00 ③ 昼食
- 13：00～13：30 ④ 見学等 払沢の滝
- 13：30～15：30 ⑤ 見学等 檜原森のおもちゃ美術館
- 15：30～16：00 ⑥ 解散 JR武蔵五日市駅

五日市駅に集合後、貸切バスで檜原村内にある林業経営体の社有林を見学し、東京の森林・林業や森林整備等について説明を受けた。お昼には絶景の中でおいしいお弁当を食べた後、払沢の滝までの遊歩道を散策し、マイナスイオンを満喫した。午後からは、「檜原森のおもちゃ美術館」を訪れ、地域の木材がふんだんに使われた空間や木のおもちゃの良さを体感していただいた。



檜原村の森林見学



森林や作業道の説明



檜原おもちゃ美術館見学



木育おもちゃづくり体験

No.903 東京農林水産フェアの開催

「事例の所在地」 立川市富士見町  
「調査者」 公益財団法人東京都農林水産振興財団 森の事業課  
東京都農林総合研究センター 緑化森林科  
「事例発生時期」 令和7年10月25日

~~~~~

「事例の概要」

ねらい： 東京都農林水産振興財団が行っている事業や研究内容について、イベントを通して都民に広く PR
なを： 東京の農林水産業に関するイベント
(ここではそのうちの森林・林業に係る部分を紹介)
こうした： 立川庁舎の多目的広場（ふれあい広場）等において開催

「事例の具体的内容」

- 1 日時 令和7年10月25日（土） 10:00～15:00
- 2 場所 公益財団法人東京都農林水産振興財団立川庁舎
- 3 イベント内容

(1) ツリークライミング

森や木に関連する体験イベントとして、ザイルを使って登る「ツリークライミング」を実施した。毎年大好評のイベントであり、今回も幅広い年代から多くの応募があった。参加者はザイルを登るのに苦労しながらも、普段できない体験を楽しんでいた。当日はあいにくの雨であったため、状況を踏まえ、午後に予定していた2回を中止とした。



ツリークライミングを楽しむ参加者

(2) 木のコースター等へのお絵描き

木のたまご・コースターへのお絵描きを実施した。いずれも多くの子供達に参加していただいた。



木のたまご・コースターへのお絵描き

(3) 丸太伐り体験

大人の補助が必要な小さな子供から一人でノコギリを扱える子供までが楽しめるように、直径5cm程度から15cm程度の複数の大きさの丸太を揃えた。また、親子等で楽しめる両手挽鋸も用意し、非常に好評であった。



大小の丸太を伐る様子

(4) 木工体験

東京の木多摩産材を使った木工体験を行った。今年は、ブックスタンドを制作した。雨天にも関わらず小さい子供からお年寄りまで約50組の参加があり、参加者は職員の補助を受けながら一生懸命に作品を完成させていた。



製作風景



完成品

4 その他

本フェアは、「産業サポートスクエア・TAMA ウェルカムデー」の一環として公益財団法人東京都農林水産振興財団が主催する農林水産・食品分野のイベントであるものの、林業技術事例集の性格上、ここでは森林・林業関係について報告した。

なお、参加費等の金銭を頂く際は、「緑の募金」として頂戴する旨を伝えるなど、緑の募金事業の周知を行った。



写真一 2 「百年の森」



写真一 3 試験林の無花粉スギ

③多摩木材センター

多摩木材センターでは伊藤専務からスギとヒノキの見分け方や年輪についての説明を受けた。グラップルを使った積込作業も見学し、初めて見る機械に興味気味だった。



写真一 4 多摩木材センター



写真一 5 グラップルによる積込

④青梅合同庁舎

最後に青梅合同庁舎に移動し、まずは多摩産材情報センターを見学して製品になったスギやヒノキを手にとった後、スギのしおりをおみやげにもらった。

それから3Fの会議室に移動し、一般社団法人 kitokito の野口可奈子さんによるワークショップを行った。多摩産材のヒノキを使ったヨーヨーやカスタネット、ぶんぶんごまを作って、スタンプやカラーペンで思い思いの柄を付けた。持ち帰り用の巾着袋はガチャガチャでもらった。



写真—6 ワークショップ材料



写真—7 巾着入りのガチャガチャ

最後に、森林事務所の普及担当から東京の森林や林業について説明を受け、新聞づくりにとりかかった。東京新聞の記者の方からは、「初めて知ったことやへえ！と思ったことを一つに絞るのがポイント」とのアドバイスがあった。時間内に完成できなかった子供もいたが、全員が分からないことを積極的に聞いて記事を書いていた。

暑い中、短い時間で色々な現場に行き、たくさん話を聴きながらメモを取り記事にまとめるのは大変だったと思うが、みんな楽しそうに帰って行ってくれたので本当に良かった。バーチャルやAIが盛んな現代において、自分の



写真—8 普及担当の説明

五感で見て聞いて触ってみることでしかわからないこともあるはずなので、今後も現場での体験を通じて森林・林業を理解してもらおう場を提供していきたい。



写真—9 新聞作りを手伝う普及担当



写真一 1 審査の様子

3 各都県の発表テーマ及び要旨

(1) 千葉県：「森林環境譲与税を活用した森林整備における市町村支援」

・森林環境譲与税（以下、「譲与税」という。）について、中部林業事務所管内において、木更津市及び袖ヶ浦市に対し、県は市町村及び森林組合に対して支援を行ってきた。

・千葉県は森林 1 筆当たりの面積の小ささが全国 4 位、森林所有者 1 人当たりの所有面積の小ささは全国 2 位である現況に加え、地形については、国内でも 1 番複雑な地形であるとするデータもあり、森林の集約化が困難である他、施業に係るコストが高くなるケースが多い。

・現状を踏まえた千葉県型の森林経営管理体制の実現に向けて、千葉県森林組合連合会を事務局とする「千葉県森林経営管理協議会」（以下、「協議会」という。）を中間支援組織として設立し、協議会と連携して市町村が譲与税を財源とした森林の集約化や森林整備等の中心的な役割を果たすための相談や情報共有を中心とした支援を実施してきた。

・令和 6 年度に協議会の事務局である県森連へ実行計画の作成に関する業務委託を行い、その作成を積極的に支援した。特に、作業路の作設については、市担当職員や森林組合への聞き取りによる課題の把握と情報共有、譲与税や森林整備に関する説明を始めとした市部局内の合意形成への協力、既存制度の見直しと事例を参考とした譲与税の活用方法の提案といった支援を実施し、地形が複雑な地域や既存の路網が少ない地域の森林整備に対して、譲与税の活用方法を検討するなど、実行計画を実施するために支援を行ってきた。

- ・ 今後は、本取り組みを県内の他市町村に対して広げていくとともに、引き続き両市への支援を行っていく。

(2) 群馬県：「森林の新たな価値の創出に向けた地域支援～神流町における取組～」

- ・ 群馬県森林・林業基本計画 2021-2030 では、基本方針の1つとして「森林の新たな価値の創出」を掲げており、新規分野に意欲的な人材を継続的にサポートすることは林業普及指導員の重要な役割である。今回は多野郡神流町における支援の内容について報告する。

- ・ 神流町は人口減少・高齢化が進み林業の低迷が課題である一方、平成28年度に始動した「神流町林業再生プロジェクト」による基盤整備や地域ブランド「神流杉・神流檜」の推進が進展している。

- ・ アロマ蒸留器の導入、森林セルフケア体験会、県内イベントでの神流杉PR等活動において、林業普及指導員としてイベント企画や団体活動方針の検討、規約作り等補佐を行い、側方支援に徹することを心掛けた。

- ・ その結果、研修受入の拡大や地域団体の活動基盤整備、建築業界との新たな連携など、地域発信力と森林活用の可能性が広がった。

- ・ 地域主体の取り組みへの伴走支援を継続するにあたり、今後は観光分野等県内関連事業の情報提供等により、地域の稼ぐ力向上を図る支援を行っていく。

(3) 埼玉県：「秩父地域における林業労働安全対策について」

- ・ 近年、秩父地域ではナラ枯れ被害木の伐倒駆除やシイタケ原木の需要増加から広葉樹伐採が増加している。広葉樹伐採にはより高度な安全対策が必要だが、造園業者や建設業者など林業区分外での事故が多発している他、森林環境譲与税の導入により市町村職員も林業労働災害に関する知識や経験を積むことが求められている。

- ・ 過去13年間で31件の労働災害（うち10件が死亡事故）が発生し、特に「かかり木処理」や歩行中の被災が多く、かかり木災害は7件中4件（4名）が死亡災害となっている。

- ・ 自伐型林業者や市町村職員を対象に、指導会・研修会・アンケート調査を実施した結果、チェーンソー使用経験者は多いが、安全防止策の認知は

半数以下で、情報収集機会も乏しいことが判明した。

- ・県では経験の浅い自伐型林業者への現地パトロールや補講研修を実施し、安全作業の指導や危険状況の共有を行った結果、令和7年度（8月末時点）は自伐型林業による災害が発生していない。

- ・今後は個人事業主や市町村職員を含む関係者へ安全情報を継続的に発信し、林災防・労働局など関係機関と連携しながら、地域全体で「事故ゼロ」を目指す取組を強化する。

（4）神奈川県：「神奈川県における広葉樹材利活用に向けた取組について」

- ・神奈川県では森林面積の約6割を広葉樹が占める一方、生産量は令和4年度まで200 m³未満と極めて少なかった。令和4年度から県による広葉樹搬出支援を開始したことで700 m³程度まで増加したが、需給のミスマッチやナラ枯れ被害による処分費増大などが課題となっていた。

- ・相模原市の「児童机天板交換事業」では市内の小学校の机の天板を従来の合板から「さがみはら津久井産材」の広葉樹材の天板に交換しているが、市内の広葉樹は伐採されているものの処分されており、「さがみはら津久井産材」の広葉樹材が手に入らないという需給のミスマッチが生じていることが課題として挙げられた。

- ・令和4～5年度の試行を経て令和6年度からは広葉樹材の需給マッチング強化として、相模原市管理緑地をモデル林に設定し、128本の樹種や胸高直径等資源情報をWeb公開し、「児童机天板交換事業」の材料供給や厚木市の事業を支援することができた。

- ・ただし、立木の写真のみでは需要側が判断しにくく、マッチングには至らない事例も多いことが判明した。市町村における「広葉樹＝資源」という認識不足や造園業者が活用を意識せず伐採等を行うことも活用の妨げとなっている。

- ・今後は市町村・受注者との認識共有の場の設置、丸太・板材情報の公開、幅広い需要者の開拓、供給側と需要側が双方向で情報共有できる仕組みづくりにより、広葉樹材利活用の拡大を図る。

（5）茨城県：「市有林の長期経営管理委託について」

- ・常陸太田市では、市内の財産区有林の市有林編入等を経て市有林が広範

困りに点在し情報が一元化されていないことや市林務担当職員の専門性不足や作業負担の増大により、十分な森林整備が行えないことが課題であった。県は市へ「長期経営管理委託」の導入を提案し、伴走支援を行った。

・委託業者の決定は提案型プロポーザル方式を採用し、15年で市内全人工林を整備する前提で、5年ごとの事業計画を提示させる形で委託事業者を選定した。提案を受けるに当たり必要となる森林情報は、市の高有罪違算資料や林地台帳と県の森林簿や航空レーザ測量データ等の照合を行うことで整理した。

・結果、財産区有林時代から管理実績と森林情報を有する常陸太田市森林組合が森林整備にかかる経費に木材販売収入と造林補助金を充当することで市からの委託料を不要とし、さらに発生した余剰金を市へ納入する案を示し、令和6年度から私有林の経営管理を開始することとなった。

・委託により、市は安定した管理体制を確保し、森林組合は経営基盤強化につながるWin-Winの関係が構築された。県内初の事例として他市町村への波及も期待されるため、今後も指導所が三者調整や技術支援を継続する。

(6) 東京都：「町田市有林の広葉樹をシイタケ原木に！町田市・NPO法人・JA・シイタケ生産者との連携」

個別記事（P11～）にて記載。

(7) 栃木県：「栃木県矢板市における森林資源を活用した地方創生への取組」

・矢板市では平成30年に市内素材生産事業者や製材工場が連携し、林業・木材産業の成長産業化を目指すべく、国のモデル事業に選定され『矢板市林業・木材産業成長化推進協議会』（6者）が設立された。県はアドバイザーとして5年間各種取組みへの助言・支援を行ってきた。

・大型製材工場「デカーレ矢板」（株トーセン）が整備されたことにより年間約12万m³の大径丸太需要が生まれた一方、素材の安定供給体制が課題となり、地元のたかはら森林組合を中心として取り組んできた。

・課題であった労働力不足・作業量増に対応するため、森林経営計画（集約化）の改革を進め、小規模分散から大規模施業への転換を図り、OB職員の知見を活用する等して施業地情報の把握が進み、効率化の目途が立った。

・直送改革（台貫重量取引の検討）・スマート林業導入（ドローン測量・薬

剤散布)により、検知作業、省力化、書類作成簡素化、安全性向上などを実現し、組合の業務負担軽減と生産効率向上の基盤づくりが進んでいる。

・今回の取り組みは「コスト・労力・時間をかけない改革」を意識づける効果が大きく、今後は新組合長の下で内部・業務・販売の改革を進め、100年先を見据えた林業活性化と「デカーレ矢板」への安定供給を通じ、地方創生と国産材時代の構築を目指し、県もこれを積極的に支援したい。

(8) 山梨県：「森林作業道作設現場技能者の育成に関する取り組みについて」

・南都留森林組合から、若手職員や関連する個人事業主への森林作業道作設技術指導の依頼があり、県森林総合研究所が研修を実施した。

・受講者の経験を踏まえ、座学と実習による基礎知識の習得、現地での線形計画・作設方法の直接指導を実施し、特にヘアピンカーブの安全な線形づくりに重点を置いた。

・現地指導では縦断勾配 10 度以下、片切・片盛、盛土転圧など基本技術を指導し、曲線半径 $R=6.0\text{m}$ ・勾配約 6 度の安全性に配慮したヘアピンカーブを造成した。また、現地指導にて作設した作業道の形状をデータとして蓄積し、今後の作業道研修や作設指導等への活用を図るため、地上型三次元レーザースキャナにてヘアピンカーブの形状を取得した

・研修・現地指導とも受講者から高評価を得ており、理論と実践を結び付けた学習が技術向上に寄与した。当組合からは継続的な開催要望も寄せられた。

・今後も当組合への相談対応を行うとともに、今回の事例を県内林業経営体に周知し、同様の要望があった場合は都度対応していく。

令和7年度 普及指導関連行事・活動一覧

| 名称 | 日程 | 場所 | 業務内容 | 普及職員
(人数) | 備考(主催・参加団体・
協力者等) |
|--|---------------------|---------------------|-----------------|--------------|---|
| 教育庁義務教育指導課
事業説明会 | 4月18日(金) | 教職員研修センター | 事業説明 | 1名 | 教育庁、学校 |
| 第34回みどりの感謝祭 | 5月10日(土) | イノホール | 式典運営等 | 2名 | 林野庁・都等主催、緑化関係者、団体等 |
| みどりとふれあう
フェスティバル | 5月10日(土)～ | 高尾599ミュージアム | 丸太切り | 1名 | 八王子林研 |
| | 5月11日(日) | | | 1名 | 日の出林研 |
| 高性能林業機械視察 | 5月14日(水) | 八王子市上恩方 | 現地視察案内 | 3名 | 森林総研 多摩森林科学園
森林技術総合研修所 |
| 都林研理事会① | 5月16日(金) | 住友金属鉱山アリーナ青梅 | 理事会出席 | 3名 | 都林研 森林協会 |
| 武蔵野市
森の市民講座① | 5月18日(日) | 武蔵野市民の森
自然体験館 | 草木染め | 2名 | 財団 武蔵野市
女性林研 |
| 第53回全国林業後継者大
会 | 5月24日(土) | 埼玉県飯能市 | 大会参加 | 1名 | 八王子林研3名 |
| 第75回全国植樹祭 | 5月25日(日) | 埼玉県秩父市 | 式典等参加 | 2名 | 八王子林研3名 森林組合等 |
| 第58回都林研総会 | 6月7日(土) | S&Dたまごセンター | 総会出席 | 5名 | 青梅りんけん
都林研 |
| 青梅総合高校演習林実習 | 6月5日(木) | 青梅総合高校演習林 | 森林・林業講座 | 3名 | 青梅総合高校生徒及び教員 |
| 青梅総合高校授業① | 6月12日(木) | 森林事務所会議室 | 森林・林業講座 | 3名 | 青梅総合高校生徒及び教員 |
| 武蔵野市
森の市民講座② | 6月29日(日) | 武蔵野市民の森 | 木工細工 | 3名 | 財団 武蔵野市
女性林研 |
| 青梅市森林整備
推進協議会① | 7月7日(月) | 青梅市役所 | オブザーバー | 1名 | 青梅市 |
| エンジョイ・フォレスト
女性林研通常総会 | 7月7日(月) | 二俣尾自然体験館 | 総会出席 | 3名 | 女性林研 |
| 原木椎茸ホダ場巡回指導 | 7月8日(火) | 町田生産者 | 巡回指導 | 1名 | 東京都椎茸生産組合連合会
青梅きのこ生産振興会
JA町田市 JA八王子 JA東京南 普及
協力員 農総研 |
| | 7月9日(水) | 青梅生産者 | | 1名 | |
| | 7月9日(水) | 日の出・奥多摩生産者 | | 1名 | |
| | 7月16日(水) | 八王子・多摩・稲城生産者 | | 1名 | |
| あきる野市森林整備
推進協議会① | 7月18日(金) | あきる野市役所 | 協議会参加 | 1名 | あきる野市 |
| 合同安全パトロール① | 7月22日(火) | 檜原村上平(下刈現場) | 現場パトロール | 2名 | 東京都森林組合 林災防
青梅労基署 (株)労働調査会 |
| 武蔵野市
森の市民講座③ | 7月30日(水) | 二俣尾自然体験館 | 苔玉づくり | 3名 | 財団 武蔵野市
女性林研 |
| 関東・山梨
グループコンクール | 8月1日(木) | ライトキューブ宇都宮 | 林研発表補助 | 1名 | 栃木県
八王子林研 |
| 高校生林業機械研修
(刈払機) | 8月1日(金) | 青梅総合高校 | 刈払機 | 1名 | 研修講師 |
| 東京大学視察 | 8月6日(水) | 管内一円 | 現地視察案内 | 3名 | 農総研 都苗組 森林組合
花粉対策室 多摩木材センター
浜中材木店 |
| 高校生林業機械研修
(チェーンソー) | 8月6日(水)～
8月8日(金) | 青梅総合高校 | チェーンソー | 1名 | 研修講師 |
| 先生のための
森林教育セミナー | 8月7日(木)～
8月8日(金) | 奥多摩体験の森 | 林業体験プログラム | 3名 | 東京柚人の連 |
| 伐木作業労災防止
特別活動連絡調整会議 | 8月25日(月) | 木材会館 | 会議出席 | 2名 | 林災防 東京労働局 関東森林管理局
労確センター 東京神奈川森林管理署
森林課労働力担当 |
| 「こども記者が行く！」視察 | 8月19日(火) | 管内一円 | 現地視察案内 | 2名 | 東京新聞 きらぼし銀行 あきる野市
農総研 多摩木材センター
多摩産材情報センター kitokito |
| 先生のための
日帰り森林教室 | 8月20日(水) | 林業現場、おもちゃ美術館
等 | 林業体験プログラム | 2名 | 東京チェーンソーズ |
| 女性リーダーセミナー①
「林業女子の居場所づくり」 | 9月2日(火) | 森林事務所会議室
(オンライン) | 全林研主催
セミナー参加 | 1名 | 森林組合 林業事業者 |
| 森のめぐみの保育セミナー | 9月20日(土) | 都民ホール | 事例発表等 | 2名 | NPO芸術と遊び創造協会、都、保育関
係者 |
| 女性リーダーセミナー②
「木と人を繋げ、社(森林)と
ともに生きる」 | 9月30日(火) | 森林事務所会議室
(オンライン) | 全林研主催
セミナー参加 | 1名 | 森林組合 林業事業者 |

令和7年度 普及指導関連行事・活動一覧

| 名称 | 日程 | 場所 | 業務内容 | 普及職員
(人数) | 備考(主催・参加団体・
協力者等) |
|---|------------|---------------------------------------|-----------------|--------------|--|
| 育林交流集会 | 10月4日(土) | 宮城県名取市 | 交流会参加 | 1名 | 女性林研1名 |
| 第48回全国育樹祭 | 10月5日(日) | 宮城県宮城郡利府町 | 式典等参加 | 2名 | 女性林研2名、森林組合、都木連、都緑推 |
| 東京都椎茸生産組合連合
会役員会 | 10月6日(月) | あきる野ルビア | 役員会出席 | 2名 | 東京都椎茸生産組合連合会 |
| 林業普及職員関東・山梨
ブロックシンポジウム | 10月8日(水) | 東京都(オンライン) | 主催・発表 | 5名 | 林野庁共催 |
| 女性リーダーセミナー③
「やりがいには「巨樹を残す」
選択肢を提示できること」 | 10月14日(火) | 森林事務所会議室
(オンライン) | 全林研主催
セミナー参加 | 1名 | 森林組合 林業事業者 |
| 「東都生協」視察 | 10月15日(水) | あきる野市小和田・
多摩木材センター・
沖倉製材所 | 現地視察案内 | 3名 | 東都生協 製材所 |
| 青梅総合高校授業② | 10月16日(木) | 森林事務所会議室 | 森林・林業講座 | 3名 | 青梅総合高校生徒及び教員 |
| 「Do! Nuts東京」視察 | 10月21日(火) | 主伐現場(青梅市)
多摩木材センター
搬出間伐現場(あきる野) | 現地視察案内 | 1名 | 若者アンバサダー |
| 「昭和女子大学附属
昭和小学校」視察 | 10月23日(木) | 主伐現場(青梅市)
多摩木材センター | 現地視察案内 | 3名 | 小学2年生30名及び先生 |
| 東京都農業祭 | 10月24日(金) | 東京国際フォーラム | 椎茸品評会審査員 | 1名 | 都関係者、生産団体等 |
| 木と暮らしの
ふれあい展 | 10月25日(土)～ | 都立木場公園 | 木工教室等 | 2名 | 都関係者 団体等 |
| | 10月26日(日) | | | 1名 | 檜原やまびこ会・青梅りんけん |
| 体験講座 | 10月27日(月) | 二俣尾自然体験館 | 草木染め | 3名 | エンジョイ・フォレスト
女性林研 |
| 合同安全パトロール② | 10月28日(火) | 檜原村南郷(枝打現場) | 現場パトロール | 1名 | 東京都森林組合 林災防
青梅労基署(株)労働調査会 |
| 自然労作 | 10月29日(水) | 二俣尾自然体験館 | 草木染め | 2名 | 二俣尾保育園児及び先生 |
| 八王子技術専門校
技能祭 | 11月3日(月) | 八王子技術専門校 | 苔玉づくり | 2名 | エンジョイ・フォレスト
女性林研 |
| 森のめぐみのバスツアー | 11月5日(水) | 檜原村等 | 現場見学等 | 2名 | NPO芸術と遊び創造協会、都、保育関係者 |
| 町田市農業祭 | 11月7日(金) | 町田シバヒロ | 椎茸品評会
審査員 | 1名 | 町田市
普及協力員 |
| 八王子市農業祭 | 11月7日(金) | 八王子市富士森公園 | 椎茸品評会
審査員 | 1名 | JA八王子市
普及協力員 |
| あきる野市産業祭 | 11月8日(土) | 秋留台公園 | 椎茸品評会
審査員 | 1名 | あきる野市
普及協力員 |
| 女性リーダーセミナー④
「好奇心とチャレンジ精神」 | 11月11日(火) | 森林事務所会議室
(オンライン) | 全林研主催
セミナー参加 | 1名 | 森林組合 林業事業者 |
| 府中市農業祭 | 11月14日(金) | 府中市郷土の森博物館 | 椎茸品評会
審査員 | 1名 | 府中市
普及協力員 |
| カーボンハーフスタイル
推進教育フォーラム | 11月18日(火) | 文京シビックセンター | 展示発表・事業説明 | 2名 | 教育庁、学校 |
| 自然環境学習会
(クスギ苗木植栽体験) | 11月20日(木) | 町田市有林 | クスギの植樹体験 | 2名 | 町田市 NPO団体
小山田小学校6年生及び教員 |
| 青梅総合高校授業③ | 11月20日(木) | 森林事務所会議室 | 森林・林業講座 | 3名 | 青梅総合高校生徒及び教員 |
| 青梅総合高校研究発表会 | 11月27日(木) | 青梅総合高校 | 研究発表会参加 | 2名 | 青梅総合高校生徒及び教員 |
| 武蔵野市
森の市民講座④ | 11月30日(日) | 二俣尾自然体験館 | リースづくり | 2名 | 財団 武蔵野市
女性林研 |
| 山梨県スマート林業
機械操作体験会 | 12月1日(月) | 山梨県有林 | 体験会参加 | 3名 | 山梨県普及担当 林業事業者
林野庁 リース会社等 |
| 伐木作業時における労働
災害防止のための講習会
(集団指導会) | 12月2日(火) | あきる野ルビア | 集団指導会出席 | 2名 | 林災防 東京労働局 関東森林管理局
労確センター 東京神奈川森林管理署
林業事業者 森林課労働力担当 |
| 自然環境学習会
(どんぐり播種体験) | 12月3日(水) | 町田市有林 | クスギの播種体験 | 2名 | 町田市 NPO団体
小山田小学校6年生及び教員 |
| 林業普及指導員
全国シンポジウム | 12月4日(木) | 農林水産省 | 大会参加 | 1名 | 林野庁主催 |
| 女性リーダーセミナー⑤
「まとめ」 | 12月4日(木) | 森林事務所会議室
(オンライン) | 全林研主催
セミナー参加 | 1名 | 森林組合 林業事業者 |
| 自然労作 | 12月5日(金) | 二俣尾自然体験館 | リースづくり | 2名 | 二俣尾保育園児及び先生 |
| 全国林業普及研修大会 | 12月5日(金) | 全国町村会館 | 大会参加 | 1名 | 全国改良普及協会ほか |

令和7年度 普及指導関連行事・活動一覧

| 名称 | 日程 | 場所 | 業務内容 | 普及職員
(人数) | 備考(主催・参加団体・
協力者等) |
|------------------------------|----------------------------|--------------|--------------------|--------------|--------------------------------------|
| 森林研究室 | 12月7日(日) | フレア五日市 | 研究発表会参加 | 1名 | 都立高校生 東京都教育庁 林業事業体 |
| 第11回とうきょうの木
木工・工作コンクール表彰式 | 12月22日(月) | リファレンス西新宿 | コンクール受賞者
表彰 | 2名 | 東京都図画工作研究会 |
| 森林生態学セミナー | 12月24日(水) | 山梨県恩賜林記念館 | セミナー参加 | 1名 | 山梨県普及担当 林業事業体
森林総研 近畿大学 |
| 青梅市森林整備
推進協議会② | 1月9日(金) | 青梅市役所 | オブザーバー | 1名 | 青梅市 |
| 武蔵野市
森の市民講座⑤ | 1月18日(日) | 二俣尾自然体験館 | 林業体験 | 2名 | 財団 武蔵野市
女性林研 |
| 八王子市中野北小学校
社会科授業① | 1月27日(火) | 八王子市中野北小学校 | 外部講師 | 3名 | 中野北小学校5年生及び教員 |
| 八王子市中野北小学校
社会科授業② | 2月4日(水) | 八王子市中野北小学校 | 外部講師 | 3名 | 中野北小学校5年生及び教員 |
| 山しごと体感フェスティバル | 2月7日(土)～
2月8日(日) | 昭和記念公園 | イベント主催 | 5名 | 林業事業体 林研 農林水産振興財団
チェンソーメーカー リース会社 |
| ボランティア間伐体験① | 2月22日(日) | 町田市有林 | クスギの間伐体験 | 2名 | 町田市 NPO団体 |
| 自然労作 | 2月25日(水)
→3月4日(水)
順延 | 二俣尾山林 | 植樹体験 | 3名 | 二俣尾保育園児及び先生 |
| 全国林業グループコンク
ール・
通常総会 | 2月26日(木)～
2月27日(金) | 全国町村会館 | グループコンクール、
総会参加 | 3名 | 全林研主催 |
| 全林研女性会議
はつらつ交流会 | 3月6日(金) | 森林事務所(オンライン) | 交流会参加 | 1名 | 全国林業究グループ連絡協議会
女性林研 |
| ボランティア間伐体験② | 3月18日(水) | 町田市有林 | クスギの間伐体験 | 2名 | 町田市 NPO団体 |
| 都椎茸生産組合連合会総会 | 3月18日(水) | 森林組合 | 総会参加 | 2名 | 東京都椎茸生産組合連合会 |

登録番号(7) 231

令和8年3月

林業技術事例集
(普及情報)
第44集

編集・発行 東京都産業労働局農林水産部森林課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5320)4854 ダイヤルイン

印刷所 能登印刷株式会社
電話 076(233)2550

表紙：R40 古紙再生率40%再生紙を使用しています。

本文：R60 古紙再生率60%再生紙を使用しています。

石油系溶剤を含まないインクを使用しています。

R40
古紙/パルプ配合率40%再生紙を使用(表紙)

R60
古紙/パルプ配合率60%再生紙を使用(本文)